

み。ね。つ。ば。め。 烏。が。い。 右同断。

大きさ、つばめに大きし、さへづりよし、

小つばめ 烏。が。い。 右同断

大きさ、つばめにちいさし、總身くろく、羽に少しゑろき毛あり、き色のまゆ有て、咽胸までかばき
いろにあかし、さへづりほそし、此鳥羽づかい面白し、ひろきかごにとまり木壱本入よし、冬また
はるのするに出る、すくなし、

同。こ。む。し。く。ひ。 烏。が。い。 粉生。ふ。壹。冬。あ。を。み。入。

小つばめの若鳥なり、毛色小つばめの色にそうたいうすきものなり、諸事小つばめにかはる事
なし、秋のすゑふゆいづる、

〔飼鳥必用〕小つばめ

此鳥京大坂名古屋より出る、雛の内半なれとてあり、時あけて本毛となる、此鳥を飼時は、小つば
め籠とて、丸籠にて山がらもんどり籠の通りにて飼也、さかりの節は中にて舞ながら啼もの也、
餌飼鯽にて五分餌也、○中略

つばくら

此鳥三月前後江戸にて子を生立候て、秋の節何國へか飛かへるなり、

鶯。つ。ば。め。

此鳥も秋巣組するに、へうたんの形に巣を懸る也、

雁。金。つ。ば。め。

此鳥江戸にて巣をせず、空計まひ、下たには下ざる鳥也、